

ユニセフの緊急募金

ユニセフは、紛争や予期せぬ自然災害などの緊急事態が発生した際、子どもたちを守る活動を迅速に行っています。

現在、受け付けている緊急募金

● ウクライナ緊急募金

危機下にあるウクライナの子どもたちやその家族を支援するための募金です。

● 新型コロナウイルス緊急募金

新型コロナウイルスに対応するユニセフの活動を支える募金です。新型コロナウイルス感染拡大以前から紛争などにより医療体制が脆弱な途上国で命の危険に晒されている子どもたちを最優先に支援します。
なお、本緊急募金を通じてお寄せいただいたご寄付については、日本を含む先進国は支援対象といたしません。

● ロヒンギャ難民緊急募金

ミャンマーのラカイン州から国境を越えてバングラデシュに逃れてきたロヒンギャ難民の子どもたちを支援する募金です。

● シリア緊急募金

武力紛争により避難を強いられているシリアの子どもたちと家族を支援する募金です。

● 自然災害緊急募金

世界各地で発生している地震や津波、洪水、台風やサイクロン、干ばつなどの自然災害で被災した人への緊急・復興支援活動を支える募金です。

● 人道危機緊急募金

世界各地でいまだ続く戦争や武力紛争の影響を受けている子どもたちへの緊急・復興支援活動を支える募金です。

● アフリカ栄養危機緊急募金

西部・南部を中心に栄養危機に直面する子どもたちを支援する募金です。

ユニセフ協会にお寄せいただきました緊急募金は
速やかにユニセフ本部を通して現地事務所に送り、子どもたちのために役立てられます。

緊急募金に
ご協力を
お願いします。

(ゆうちょ銀行) <振替口座>
振替口座：00190-5-31000 (窓口の場合手数料免除)
口座名義：公益財団法人日本ユニセフ協会
通信欄に「ウクライナ」「コロナ」「アフリカ」など明記してください。
明記がない場合は一般募金になります。
*振込用紙を希望される方は宮城県ユニセフ協会にご連絡ください。



ユニセフ募金報告

2021年1月～12月：宮城県ユニセフ協会預かり

2021年に宮城県ユニセフ協会へ寄せられた募金は、**6,653,183円**でした。

<一般募金>

(私) 向山こども園、仙台市立加茂小学校、仙台市立五橋中学校、仙台二華高等学校、白石市立東中学校、白石市立小原小中学校、仙台市立錦ヶ丘小学校社会学級、(私) 聖ドミニコ学院小学校、(私) 南光紫陽幼稚園、宮城教育大学生協学生会委員会、(株) 河北新報社、内科小児科本間医院、みやぎ生活協同組合、単電気(株)、(株) 豊栄堂印刷所、日本生協連北海道・東北地連事務局、宮城一般労働組合(敬称略・順不同)



宮城教育大学生協学生会委員会のみなさん

他にも、多くの個人のみなさまから温かいご支援をいただきました。ありがとうございました。

宮城県ユニセフ協会

月～金 9:30～16:00

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協文化会館ウィズ内
Tel 022-218-5358 Fax 022-218-5945
E-mail: sn.municef_miyagi@todock.jp
URL <https://www.unicef-miyagi.gr.jp>



郵便局(ゆうちょ銀行)ユニセフ募金口座のご案内

振替口座：00190-5-31000
加入者名：公益財団法人日本ユニセフ協会
通信欄に「K1-040 宮城県ユニセフ協会」と記入
※窓口からの送金は手数料がかかります

UNICEF NEWS in みやぎ

unicef
for every child

2022.7 Vol.94

栄養危機 アフリカの角

栄養不良による入院、死亡が大幅増 差し迫る危機に再び国際社会の関心を

ウクライナ危機による食料価格の高騰、一部の国での気候変動による長引く干ばつ、そこに紛争、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による経済的影響などが加わって、世界中で子どもの食料・栄養不安が続き、重度の栄養不良に苦しむ5歳未満児の数は危機的なレベルに達しています。

今年に入ってから、深刻化する世界的な食料危機により、アフリカの角(アフリカ大陸東部地域)や中央サヘル地域など危機の影響を受けている15カ国において、あらたに26万人(60秒に1人)の子どもが重度の栄養不良に陥りました。

今年、アフリカの角地域で最も被害が大きかったいくつかの地域では、入院治療センターで合併症を伴う重度の急性栄養不良により命を落とした子どもの数が、昨年と比較してすでに3倍に達しています。

この2年の間に4回連続で雨季が来ず、作物は枯れ、家畜は息絶え、水源は枯渇しています。また、次の10月から12月にかけても雨が降らない可能性が高いと予測されています。

ユニセフは、15カ国で暮らす少なくとも4,000万人の子どもが、幼児期の成長と発達に必要な最低限の食事を確保できておらず、深刻な栄養不安に陥っていると推定しています。さらに、2,100万人の子どもが、最低限の食料すら十分に入手できず、重度の栄養不良になるリスクにさらされています。

手遅れになる前に、こうした子どもたちに今すぐ治療を提供する必要があります。(日本ユニセフ協会ホームページより)



© 日本ユニセフ協会
アフリカの角(アフリカ大陸東部地域) 急性栄養不良の状態が深刻な地域



© UNICEF/UN0644285/Fazel
モガディシウの病院で、重度の栄養不良と診断された1歳のモカダスちゃん。
(ソマリア、2022年5月25日撮影)

アフリカ栄養危機緊急募金にご協力ください。

ユニセフは、支援を必要とする子どもやその家族へ緊急支援活動を行うための資金を国際社会に要請しています。しかしながら、一刻を争う現地の状況に対し、必要な活動資金は圧倒的に不足しています。最も支援を必要としている子どもたちとその家族に支援を届けるために、アフリカ栄養危機緊急募金にご協力をお願いいたします。(募金先は日本ユニセフ協会のホームページをご覧ください。)



© UNICEF/UN0602381/Ralaivita
母親に抱かれながら、栄養治療食(RUTF)を食べる2歳の男の子。(マダガスカル、2022年3月撮影)

2021 年宮城県ユニセフ協会の活動

2021 度も新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、工夫しながら以下のような活動をしました。

国際理解学習会

「The future we want ～私たちが望む未来～」

2021年5月8日(土)

会場：みやぎ生協文化会館ウィズ

内容：キリバスにおける気候変動・地球温暖化が引き起こす人的側面の問題と、それに直結するSDGs に関する講演を行っていただき、会場に26人、オンラインでは34人が参加しました。



講師：ケンタロ・オノ氏
一般社団法人日本キリバス協会代表理事

夏休みユニセフ教室～外国コイン仕分けボランティア体験～

2021年7月31日(土)

会場：みやぎ生協文化会館ウィズ

ユニセフの支援活動について学習したあと、宮城県ユニセフ協会に寄せられた外国コインを国別・金種別に仕分けする体験を行いました。参加したのは、小学生親子・高校生5人と新規のボランティアで、約40分で156,413円のコイン・紙幣を仕分けました。



感想

子どもがいろいろなことに興味を持つきっかけになった

世界の現状を聞き、自分の置かれている環境がいかに幸せであるかを再確認できた

ユニセフ映画上映会 「存在のない子供たち」

2021年10月22日(金) 2回上映、参加118人

会場：せんだいメディアテーク 7Fシアターホール

2018年 / レバノン・フランス / 125分 監督、脚本、出演 ナディーン・ラバキー

中東で生まれた男の子は、出生届を出されていないことから社会に存在していない状況にあります。学校に通うこともなく、劣悪な児童労働環境にある子どもが弱きものを守るために「僕を生んだ罪」で両親を訴えます。



© 2018 MoozFilms

感想

わたしたちが『生きることを守る』ということは選挙の投票も大切な一歩だと思った。

世界中の子どもが子供らしく幸せに成長できたら強く思います。

2021 年その他の活動

◆「子どもの権利に関するパネル展」

2021年5月17日(月)～21日(金)

宮城県庁1階ロビー

「長谷部誠大使のギリシャ難民キャンプ訪問」

ギリシャ難民キャンプを訪れた長谷部誠大使の思いや、難民キャンプの子どもたちの姿を紹介しました。

「アグネス大使ニジェール訪問」

ニジェールの人々が命がけで国を出る決心をする背景には何があるのか。アグネス・チャンユニセフ・アジア親善大使が現地を訪問した様子を紹介しました。

◆ユニセフ学習会、出前講座など

6月 仙台市立荒巻小学校4年生

12月 聖ドミニコ学院小学校1～3年、4～6年

12月 ユニカフェ みやぎ生協柏木店A こへぶ委員会

12月 ユニカフェ みやぎ生協柏木店C こへぶ委員会

◆ユニセフ写真展

2021年5～6月、11～12月

みやぎ生協文化会館ウィズ

①「子どもたちにやさしい地球を残そう」

私たちが取り組むべきたくさんの課題について、ユニセフと一緒に考え行動することを呼びかけました。

②「私たちも学校に行きたい」

世界の子どもたちが抱える様々な問題をパネルを通して訴えました。

◆ボランティア学習会

6月 2021年度 学習講師研修会(オンライン)

11月 ユニセフ先生の特別授業(オンライン)

12月 国際理解学習会
「シャプラニール=市民による海外協力の会の活動について」

講師：NGO シャプラニール仙台・ポンドウの会
代表 原容子さん
南アジアの児童労働問題や活動内容について学習しました。

2022 年宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ映画上映会&講演会

「荒野に火を灯す～医師・中村哲 現地活動35年の軌跡～」を開催しました。

日時：6月4日(土) 14:00～16:00

会場：せんだいメディアテーク7F スタジオシアター

講演：谷津賢二さん(監督・カメラマン)

参加人数：165人

中村哲医師が35年にわたり、アフガニスタンとパキスタンで医療支援や用水路建設など、現地住民の生活を支え続けた活動を知り、国際支援活動について考える機会として開催しました。



講演する谷津監督



映画パンフから © 日本電波ニュース社

感想

「困っている人がいたら声をかけ助ける」「自然と人間の和解」が中村哲さんの活動の原点で、今起こっている戦争や、子どもの虐待、人間による自然破壊、気候変動などの問題は、全てこの言葉に集約されていると思いました。

水が世の中を変える、その一歩を人生かけて進めた中村さんに感動しました。

武器を持って戦うのではなく、人に寄り添って行くことの大切さを学びました。

谷津監督が「自然にも人格がある」「人と自然の和解」が心に響き、自分ができることを行おうと考えることが出来ました。

宮城県との共催で

「子どもの権利に関するパネル展」を開催しました。

会場：宮城県庁1階ロビー

期間：5月23日(月)～5月27日(金)

展示パネル：「長谷部誠大使がたどるワクチンの旅」
「ポリオのない世界へ」



パネル展の写真

ユニセフ出前講座を開催しました。

日時：6月30日(木) ①9:30～10:30 ②10:50～12:00

会場：仙台市立荒巻小学校4年生71人

講師：杉本昭子(宮城県ユニセフ協会ボランティア)

内容：クイズや映像からユニセフの支援活動と世界の子どもたちが抱えている問題を伝え、視野を広げて自分にできることを考える機会にしました。

問い

「すべての子どもに
[]を」の箱の中に
何を入れますか？

子どもたちの答え

「安全と安心」「平和」
「食糧」「生きる」「夢」「自由」



これからの活動

夏休みユニセフ教室～外国コイン仕分けボランティア体験～

ユニセフの支援活動について学習したあと、外国コイン仕分けのボランティアを体験します。小中学生の親子・高校生・大学生が対象です。

●7月30日(土)10:00～12:00

●みやぎ生協文化会館ウィズ

●研修室 募集人数 20人

仙台空港国際線に設置している外国コイン募金箱



ユニセフ写真展

4～6月、10～12月

みやぎ生協文化会館ウィズ

(4～6月『子どもの権利条約』)

ユニセフ学習会・出前講座

9月 富谷第二中学校3年生

※ユニセフ学習会・出前講座を希望するかたは事務局まで